

一般質問 Q & A



共に創る掛川
藤澤 恭子

より実践的なシチズンシップ教育のために

Q 学生や若者の市民参画、市政参画の機会を増やすためには、地域社会と行政の協働が不可欠であるが、どのような取り組みを考えているか伺う。

若者の市政参画を促す会議形式を研究

A 子育て支援やしごとづくりなどは、若い世代が直面する課題であり、若者の参画が今後の有効策に繋がるだけでなく、若者が市政に興味を持つきっかけにもなります。現状、まだまだ不十分だと思いますので、今後はSNSを活用したテレビ会議等、参画しやすく、意見を出しやすい会議の形を研究しながら、実施していきます。

※シチズンシップ教育：市民としての資質・能力を育成するための教育。他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な能力を身に付けさせる。

災害時備蓄品についても食物アレルギー対応の検討を

Q 近年、増加傾向にあるアレルギー疾患への対応も必要だと考える。そこで、災害時備蓄品の中に、乳児の生命を守る、粉ミルクとアレルギー対応ミルクの追加を検討すべきと思うが、いかがか。

早急に対応する

A 備蓄用粉ミルクは、賞味期限が1年6ヶ月と短く、毎年更新が必要であることや、哺乳瓶や乳首など消毒の問題もあるため、災害時には協定企業から受け入れる計画としてきました。しかし、必要とする方たちへ迅速に届けなければ、生命に関わる問題でありますので、早急に対応します。



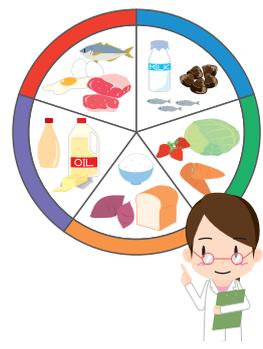
共に創る掛川
富田まゆみ

栄養教諭・学校栄養職員の増員を

Q 栄養教諭・学校栄養職員の時間外勤務は正と食育充実のため、非常勤栄養職員の人員配置を望むが、いかがか。

「食の指導」の実施方法を工夫し、負担軽減を図る

A 各給食センターの栄養教諭らが、小中学校に出向いて実施している「食の指導」について、平成30年度は、担当する小中学校校の直しを行ったり、実施日を学校ごとで1日にまとめたりして工夫し、栄養教諭らの負担軽減を図ります。



教職員が働き続けるための働き方改革を

Q 教職員の働き方改革のため、勤務実態把握と改善策を外部の視点で捉え、教育委員会主導で教育環境について保護者や地域の理解を得る努力や、部活動を学校から総合型地域スポーツクラブに移行する考えはないか伺う。



「～ある学校職員室の風景～ここから何が見えますか？」文部科学省 中央教育審議会 学校における働き方改革特別部会 妹尾昌俊氏 提出資料より

教職員の負担軽減に繋がる取り組みを進める

A 平成30年度は、非常勤職員の増員や職員が勤務しない日の設定等の取り組みを予定しています。部活動については、今後は、掛川市の部活動ガイドラインを示すなど、保護者や地域の理解が一層得られるように努めます。また、外部団体による地域部活「文化創造部」が始まりますので、その活動の状況を注視していきたいと考えます。